

報道関係者各位

PRESS RELEASE 2016 年 9 月 21 日

No. 2016 -039 -1/4

## 国際交流基金アジアセンターpresents 「CROSSCUT ASIA #03 カラフル！インドネシア」 最新ヒット作から名作まで、多彩なラインナップ決定！

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターでは、10月25日(火)に開幕する第29回東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival:以下、TIFF)にて、アジア映画特集シリーズ「国際交流基金アジアセンターpresents CROSSCUT ASIA」の第3弾として、「カラフル！インドネシア」と題し、インドネシア映画を大特集します。

世界一のイスラム教人口を有する一方、1万を超える島々を領し、地域ごとに異なる文化をもつ「究極の多様性の国」、インドネシア。

国際交流基金と東京国際映画祭では、同国の多様性を反映した個性的な作品を、1980年代から継続的に紹介してきましたが、今回はベテラン監督の最新作に加えて、今後の活躍が期待される新世代の個性光るラインナップにて11本10プログラムをお届けします。



“親密”3部作『ラブリー・マン』  
©Karuna Pictures

中でも注目すべきは、男娼の父親とイスラム教徒の娘の再会や、敬虔な信仰をもつ傍ら AV に夢中になる孤独な青年の純愛など、挑発的なテーマに取り組む日本生まれの国際派監督、テディ・スリアアトマジャの「“親密”3部作」。また、LGBT 映画の先駆者ニア・ディナタや『鏡は嘘をつかない』のカミラ・アンディニら躍進する女性監督たちによる本邦初公開作など、インドネシア新世代の描く様々な愛のかたちにご注目ください。会期中には各作品の監督や出演者なども来日し、Q&A のほかシンポジウムも予定しています。

(ラインナップ詳細は次頁)

つきましては、是非貴媒体にて本情報をご紹介頂けますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

### ■ 特集タイトル: 国際交流基金アジアセンターpresents「CROSSCUT ASIA #03 カラフル！インドネシア」

■ 概要: アジアの国、監督、俳優、テーマなどに焦点を当て、アジア映画の特集上映を行う「CROSSCUT ASIA」(クロスカット・アジア)は、2014年、TIFFの一部門として新設立された部門。アジアの現在(いま)を鋭く切り取った珠玉の映画を紹介していきます。第3弾は、究極の多様性を内包する国ともいわれる「インドネシア」を大特集。本年度の上映作品の詳細につきましては、順次ウェブサイト等でお知らせします。

### ■ 第29回東京国際映画祭 開催概要

【開催期間】 2016年10月25日(火)～11月3日(木・祝)  
【会場】 六本木ヒルズ(港区)ほか  
【オフィシャルウェブサイト】 <http://www.tiff-jp.net>  
【チケット発売】 10月15日(土)より発売開始!

※画像等 各種素材はイメージネットにて配信しております。( <http://www.image.net> )

●東京国際映画祭に関するお問い合わせ：

<TV・雑誌>エレクトロ 89 原田・奥野・佐藤  
 <新聞>アンプラグド 伊藤・塚越  
 <ラジオ>アンプラグド 金田  
 <WEB> 杉村

TEL : 03-6279-9696 / FAX : 03-3791-8381  
 TEL : 03-6408-0625 / FAX : 03-6408-0627  
 TEL : 03-6408-0625 / FAX : 03-6408-0627  
 TEL : 080-5042-9880 / MAIL : [sabu.tsubu@gmail.com](mailto:sabu.tsubu@gmail.com)

●国際交流基金に関するお問い合わせ：

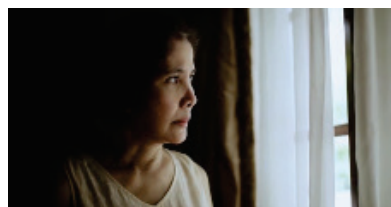
国際交流基金アジアセンター（掛谷、村田） Tel: 03-5369-6140  
 コミュニケーションセンター（川久保、熊倉、森） Tel: 03-5369-6089 / E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

国際交流基金アジアセンター presents

「CROSSCUT ASIA #03 カラフル！インドネシア」ラインナップ一覧

<日本生まれの国際派、テディ・スリアアトマジャ“親密”3部作>

1975年、東京生まれのテディ・スリアアトマジャ監督は、海外経験豊富な国際派の若手監督。“寛容なるイスラーム国”といわれるインドネシアを拠点に、挑発的なテーマに取り組む彼の最新3部作を、今回東京国際映画祭で初めて上映いたします。



©Karuna Pictures

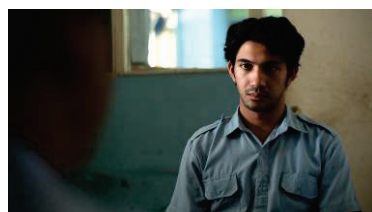
『アバウト・ア・ウーマン』（2014年／76分）

監督：テディ・スリアアトマジャ

キャスト：トゥティ・キラナ、レンディ・アハマト、アネク・ジョディ、リンゴ・アグス・ラフマン

未亡人の淑女に訪れた、突然の恋。艶やかに世界は色づき始める。

大邸宅に暮らす65歳の未亡人ダグのもとに、メイドの後任として少年アビが雇われる。やがて淡い想いが互いに芽生えはじめるが…。年齢差や立場を越えた新しい愛のかたちを示す、3部作の完結編。



『タクシードライバー日誌』（2013年／89分）

監督：テディ・スリアアトマジャ

キャスト：レザ・ラハディアン、ラトゥ・フェリシャ

都会の孤独な青年の「聖と俗」を描き、タブーに切り込む野心作

ジャカルタのタクシー運転手アハマトは敬虔なムスリムだが、家に帰ればアダルトビデオに浸る無為の日々。そんな彼が知り合いの娼婦を助けるために黒社会に突入していく。アジアフォーカス・福岡国際映画祭 2013 出品。



©Karuna Pictures

『ラブリー・マン』（2011年／75分）

監督：テディ・スリアアトマジャ

キャスト：ドニー・ダマラ、ライハアヌン・スリアアトマジャ、ヤユ・アウ・ウンル

「一夜かぎりの父と娘」衝撃と感動に圧倒されるインドネシア映画の表現を広げた傑作

テディ監督（東京生まれ！）の3部作を一挙上映！——失踪した父を探してジャカルタに出た娘は女装して働く父を発見。一夜限りの再会の果てに和解は訪れるのか…。インドネシア映画の表現を広げた傑作。大阪アジア映画祭 2012 出品。



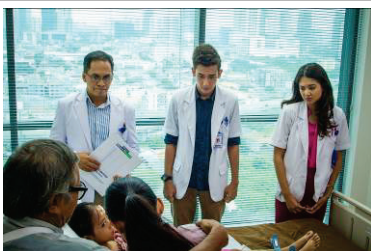
©Kalyana Shira Films / SAFilms

『三人姉妹 (2016年版)』 (2016年/124分)

監督：ニア・ディナタ

キャスト：シャンティ・パレデス、タラ・バスロ、タティアナ・アクマン

**美しい三姉妹のそれぞれの恋のゆくえ-50's名作ミュージカルが華麗に現代に甦る!**  
『分かち合う愛』(TIFF2006出品)などで知られる女性監督ニア・ディナタが、1956年の名作『三人姉妹』を現代に置きかえて描く華麗なミュージカル。個性の異なる美しい三姉妹の結婚話が活気に展開する。



『Cado Cado (ルビ：チャドチャド) ~研修医のトホホ日記』  
(2016年/103分)

監督：イファ・イスファンシャー

キャスト：アディパティ・ドルケン、ティカ・ブラファニ、アウレリー・ムーレマン

**若き研修医たちの奮闘と恋をコミカルに描いた青春映画!**  
『聖なる踊子』『黄金杖秘聞』で知られるイファ・イスファンシャーが人気小説をもとに撮り上げた、見習いドクターの目線で描く病院コメディ。東南アジアに進出する韓国の大手 CJ エンタテインメントが製作に参加。



©Miles Films

『Emma' マザー』 (2016年/77分)

監督：リリ・リザ

キャスト：チュツ・ミニ、クリストファー・ネルワン、ヤヤン・C・ヌール、アルマン・デワルティ、インダー・プルマタ・サリ

**一夫多妻制の現実。「妻」として「母」として力強く生きた女性を描いた物語。**  
今年『再会の時〜ビューティフル・デイズ 2〜』が本国でメガヒットを飛ばしているリリ・リザが早くも最新作を発表。元副大統領ユスフ・カッタの母親の自伝を原作とした、スラウェシ島を舞台にした強く生き抜く母と子の物語。



© Visinema Pictures/COCOMARU

『珈琲哲学-恋と人生の味わい方- (仮題)』 (2015年/117分)

監督：アンガ・ドゥイマス・サソコ

キャスト：チコ・ジェリコ、リオ・デフント、ジュリー・エステル

**世界有数のコーヒー産地インドネシア発!**  
「一杯の珈琲」にすべてを賭けるバリスタのピター・スイートな青春ドラマ  
カフェ「フィロソフィ・コピ」を舞台に、オーナーとバリスタの青年コンビが一攫千金を狙って完璧なコーヒー作りに邁進するが…。期待の若手監督アンガ・ドゥイマス・サソコが描くピター・スイートな青春ドラマ。



©babibutafilm

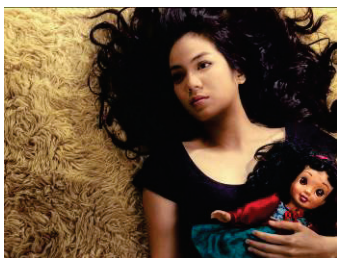
『ディアナを見つめて』 (2015年/39分)

監督：カミラ・アンディニ

キャスト：ライアハヌン、タンタ・ギンティン、パンジ・ラフェンダ・プトラ

**夫からの突然の「第2夫人を迎える宣言」。インドネシア社会に問いかける結婚の形。**  
家事に追われるディアナは、ある日、夫から「第2夫人を迎えることにした」と告げられて困惑するが…。『鏡は嘘をつかない』(TIFF2011出品)が公開された女性監督カミラ・アンディニがインドネシア社会に問いかけるメッセージ。





©Cinesurya

『フィクション。』(2008年/110分)

監督：モーリー・スリヤ

キャスト：ラディア・シェリル、ドニー・アラムシャ、キナヨシ

**夢見る少女か、サイコパスか。現実が虚構の間に引きずり込まれる異色ファンタジー。**  
『愛を語るときに、語らないこと』(TIFF2013 出品) で注目された新鋭女性監督モーリー・スリヤのデビュー作。複雑な家庭に暮らす少女の孤独な内面に寄り添うファンタジー。エドウィン作品のミュージズ、ラディア・シェリル主演。



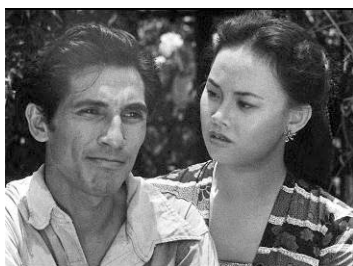
© Jeonju IFF, Edwin

『舟の上、だれかの妻、だれかの夫』 (2013年/55分)

監督：エドウィン

キャスト：マリアナ・レナタ、ニコラス・サブトラ

**美しい島々を舞台に、100年前の悲恋のルーツを探る物語。**  
『動物園からのポストカード』(TIFF2012 出品) のエドウィン監督による全州国際映画祭製作の中編。インドネシア東部のマルク諸島を舞台に、100年前の悲恋伝説をなぞるかのようにならぬ男と女が出会う、トロピカルなおとぎ話。



『戒厳令のあとで [デジタル・リストア版] 』(1954年/101分)

監督：ウスマル・イスマイル

キャスト：アン・アルカフ、ネットィー・ヘラワティ、バンバン・ヘルマント、ダリア、リド・イスマイル、アフルディン

**巨匠の不朽の名作をデジタル修復版で上映！この貴重な機会を見逃さず！**  
“インドネシア映画の父”と称される巨匠ウスマル・イスマイルの代表作をデジタル修復で上映。対オランダ独立戦争とその後の激動の時代を描く、熱気に満ちた男たちのドラマ。ウスマルの従軍体験が作品をリアルにしている。

【国際交流基金アジアセンター】 <http://www.jfac.jp>

独立行政法人国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは2014年4月に設置され、ASEAN諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアにともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。

【東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival, TIFF)】 <http://www.tiff-jp.net>

29回を迎える東京国際映画祭(以下、TIFF)は日本で唯一の国際映画製作者連盟(注1)公認の国際映画祭です。1985年、日本ではじめて大規模な映画の祭典として誕生した TIFF は、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に、世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。

(注1)国際映画製作者連盟:世界の映画産業、国際映画祭の諸問題を改善、検討する国際機関。パリに本部を置き、世界 29カ国(2015年5月現在)が加盟している。

**プレスパス登録のお願い**

<東京国際映画祭のご取材には、必ずプレスパス登録が必要となります>

登録がございませんとご取材頂けませんので、

お手数でございますが事前にプレス登録申請をしていただけます様、何卒よろしくお願い致します。

**プレスパス登録はコチラから ⇒ <http://2016.tiff-jp.net/ja/press/>**

【プレスパスに関する問い合わせ】東京国際映画祭事務局 プロモーショングループ 03-6226-3012